

# 令和4年度 学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立橋賀台小学校
-----	------------

## 1 学校教育目標

<p>自他ともに大切にし、未来をひらく力をもつ子どもの育成</p>	<p>学校関係者評価委員</p>
-----------------------------------	------------------

## 2 本年度の重点化された具体的な目標

<p>(1)「確かな学力」をそだてる。                  (2) 基本的人権を尊重する態度の育成を中心に明るく楽しい学校づくりに努める。                  (3) 特別支援教育の理解を深め、児童一人一人の個性や特性を伸ばす教育に努める。                  (4) 地域の人材や施設を生かした学校づくりと学校評価を活用する。                  (5) 喜んで働き、清潔で美しい環境づくりに努める。                  (6) 教育活動を通してSDGsの考えを意識した取組を行う。</p>	<p>学校評議員</p>
---	--------------

## 3 評価結果

職員
  保護者
  児童

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校評議員 評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
教育目標	教育目標は明確であり、その達成に向けて校務分掌が適切に機能して、学校運営の責任体制が整備されている。 学校は、「よく考えて進んで学ぶ子、おもいやりがり最後まで助け合う子、丈夫でがんばりぬく子」の育成に努力しているように感じる。 橋賀台小学校は楽しい。	・職員は全員が肯定的な回答である。 ・保護者の96%が肯定的な回答をし、前年に比べ数値が上がった。 ・児童の88%が肯定的な回答をしており、前期から3%上昇した。	A	・児童が学校に行きたくなくなる時を問うた際の理由記述は、「眠い、寒い、だるい、めんどくさい、家でゲームがしたい・・・」である。『丈夫でがんばり抜く子』の育成について、家庭と連携する必要がある。	A	B
学校関係者による意見等	・児童が、小学校は楽しいと思うことが何よりも素晴らしいと感じる。 ・「丈夫でがんばりぬく子」の育成では、個の目標がはっきりしていると、子どもは頑張れる。 ・給食の残量が少ないことも、子どもたちが健康な証拠である。職員からの励ましもよい。					
組織・運営	職員会議等が適切に機能・運営されている。 校内研修の実施体制が整備され、授業研究が継続的に実施されている。	・職員は94%が肯定的な回答をしているが、協議結果を受け入れられない教員もいる。 ・保護者の92%が、学校組織・体制について肯定的に捉えている。(前年比+6%)	B	・論点を明確にした協議スタイルを確立する。 ・ICTを活用した職員会議・各種推進委員会・会議を継続する。 ・研究推進委員会・学力向上推進委員会の月例開催を徹底する。	B	B
	教職員は、子どもたちのためにまとまって、よりよい学校を創ろうと努力しているように感じる。 危機管理体制を全職員が理解し、迅速・適切に行動できる準備が整っている。	・88%の職員が危機管理体制を肯定的に評価しているが、課題も明らかになってきた。 ・保護者の94%が学校の安全指導について肯定的に捉えている。(前年比+7%)	B	・危機管理マニュアルに基づいた職員の初動訓練を実施する。 ・事前予告なしのシェイクアウト避難訓練を実施する。 ・不審者対応の研修を実施し、検討を進める。	B	B
	学校は、安全指導を充実させ、事故防止に努めているように感じる。 学校いじめ防止基本方針を全職員が理解し、いじめの未然防止に向けた校内体制が機能している。	・全職員がいじめの未然防止に向けた校内体制を評価している。 ・保護者の肯定的評価は88%。(前年比+8%) ・児童の84%は教師のいじめに対する姿勢を評価している。(前年比-11%) ・自身については、4%の児童が「あてはまらない」と回答。	B	・いじめ事案に対する組織対応を充実させる。 ・職員間の情報共有を密にして、問題行動の早期発見・早期対応に努める。 ・人権教育を充実させる。 ・教育相談月間を定期的に開催する。 ・各種アンケート後の相談活動を強化する。	B	B
	学校は、いじめのない学校をめざし、子どもたちの様子をよく観察したり情報を集めたりして対応しているように感じる。 橋賀台小学校の先生は、しかるときにしっかりとしかる。いじめやいじわるを絶対にゆるさない。 いじめや言葉の暴力など、他の人のいやがることはしない。	・いじめの認知件数は、昨年比-13件。				

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人一人がいじめの未然防止に向け、しっかりと意識を高めて行動していると感じた。引き続き実践し、よりよい学校を創ってほしい。</li> <li>・学校や職員の目の届かないところで発生していたり、子どもや保護者が知っているけど黙っていたりすることが多い。全部を知ることは難しいものの、子供達や保護者とのコミュニケーションをより一層大切にしてほしい。</li> <li>・職員は忙しい中でも、全ての児童に寄り添って、子どもの変化を見落とさず、触れあってほしい。</li> </ul>					
教育課程 学習指導	指導と評価の一体化を図り、個に応じた指導の充実に努めている。	・全職員が「十分」「概ね十分」と回答。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校サポート教員・特別支援教育支援員等を各学級に配置し、少人数指導を充実させる。</li> <li>・ドリルタイムは、実態に応じた活動を柔軟に取り入れることによって技能の習熟を図る。授業の終末には、適用問題の実施や技能活用の時間を位置づける。</li> </ul>	B	B
	TT、少人数指導教員との連携を図り、基礎学力の向上に努めている。	・保護者の95%が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答(前年比+8%)。				
	学校は、学力向上をめざし、わかりやすく授業を工夫しているように感じる。	・児童の91%が「あてはまる」と回答。(前年比-7%)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳通信、「おうちDE道徳」を継続していく。</li> <li>・授業参観で道徳展開を実施する。</li> </ul>	A	B
	橋賀台小学校の先生は、授業中一人一人に丁寧に教えてくれる。	・職員は100%が「十分」「概ね十分」と回答。				
	道徳教育や人権教育に積極的に取り組み、思いやりのある子どもを育てている。	・保護者の89%が取組をプラスに評価。(前年比+5%)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いきいきちばっ子元気アッププラン」に取り組む。</li> <li>・栄養教諭による食育授業を実施する。</li> <li>・マラソン・縄跳び、高学年陸上練習など体力向上策を工夫し、習慣付ける。</li> </ul>	A	A
	学校は、思いやりのある子どもを育てるために、心の教育(道徳教育・人権教育など)を充実させているように感じる。	・全職員が「概ね十分」と回答。				
食に関する教育を実施したり、体育科を中心に児童の運動の機会を増やしたりして、体力向上を図っている。	・保護者の93%が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答。(前年比+7%)					
学校は、体力の向上をめざし、保健指導や運動の機会を増やしているように感じる。						
学校関係者 による意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で指導をがんばっている様子が、学校から出された「成果と課題」からも読み取れる。さらに、謙虚に、教材研究・指導法の工夫をお願いしたい。</li> <li>・感染状況を踏まえて、児童の体力向上・団結力の向上につながるように、様々な行事を実施してほしい。</li> </ul>					
生徒指導 教育相談	生徒指導、教育相談のバランスのとれた指導体制が整備されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導体制については、職員の94%が「概ね十分」と評価(未回答1名)</li> <li>・情報共有・指導方法は全職員が「概ね十分」としている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒指導ノート」を回覧したり、会議・打ち合わせで気になる児童の共通理解を図ったりすることで、関係する学年だけでなく、全職員で全校児童の指導に当たる体制を堅持する。</li> <li>・学校の取組の様子を学校便り、HPで保護者に発信する。(週2回程度、更新)</li> <li>・児童へ教育相談窓口の周知を徹底する。(教育相談員来校日を学校だよりに掲載)</li> </ul>	B	B
	情報の共有、指導の共通理解を図り、指導が統一されている。					
	児童一人一人の良さを認め、子どもの声を聴きながら伸ばす指導ができています。	・保護者の89%が認めて伸ばしていると回答、また、児童の相談対応に肯定的な回答の保護者も89%である。				
	学校は、一人一人の子どものよいところを認めて伸ばすような指導をしているように感じる。	・相談できる教師がいると回答した児童は89%(前年比-4%)				
	学校は、児童の悩みを解決しようと、話を聴いたり、相談にのっていたりするように感じる。					
	橋賀台小学校には、困ったときに相談できる先生がいる。					
学校関係者 による意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒指導ノート」を活用して、改善に向けて取り組みを進めてほしい。</li> <li>・ホームページでの発信を、継続してほしい。保護者も楽しみにしていると思う。</li> </ul>					
特別支援	特別支援教育の取組を、全ての教育活動に生かしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の体制に肯定的な評価をしている職員が100%。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育全体計画、個別の支援計画、指導計画、合理的配慮についての研修を充実させる。</li> <li>・特別支援教育推進委員会を月例開催する。</li> <li>・「合理的配慮の申し出」について、保護者への啓蒙に努める。</li> <li>・合理的配慮の共通理解・見直しを適宜行う。</li> </ul>	A	B
	特別支援教育について研修を深めるとともに校内委員会を効率的に運営し、全職員が共通理解・共通行動ができています。					
	学校は、一人一人の能力を向上させるために、困っている子ども一人一人に合わせた指導を心がけているように感じる。	・保護者の90%が学校の特別支援教育、個に応じた指導について肯定的な評価をしている。(前年比+6%)				
	学校は、保護者からの「合理的配慮に対する申し出」や要望をもとに、対応していると感じる。					
学校関係者 による意見等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の肯定的な評価は、日々の職員の指導の結果と感じる。継続を望む。</li> </ul>					

<p>地域との協働</p>	<p>学校はPTAや地域団体等と連携し、保護者や地域住民の意見や要望を取り入れた学校運営を図っている。</p> <p>保護者や地域住民への情報提供を十分に行い、本校教育活動への理解が深まっている。</p> <p>学校は、保護者や地域の声をもとに工夫改善しながら、よりよい教育活動を目指している。</p> <p>学校は、保護者への連絡をきめ細かく行っている。</p> <p>学校は、地域から魅力ある学校として信頼を得ていると思う。</p> <p>橋賀台小学校は地域やボランティアの人たちにお世話になっている。</p>	<p>・保護者等の意見を取り入れた学校運営を行っていると考え職員は94%で、未回答が1名である。情報提供に関しては、全職員が「概ね十分」と回答。</p> <p>・保護者への連絡・情報提供への肯定的な評価は95%(前年比+7%)だが、魅力ある学校・地域の声を生かす点では88%(前年比+5%)と評価が下がる。</p> <p>・児童の地域に支えられている意識は88%(前年比-7%)である。</p>	<p>B</p>	<p>・「おうちDE道德」の取組を継続する。</p> <p>・家庭・地域に向けて、授業参観やホームページ上で道徳科の授業紹介を行う。</p> <p>・地域の教育資源や地域人材とも関わられるよう、情報端末を活用したオンライン講座などの工夫を試行錯誤する。</p> <p>・学校便りやホームページなどで、「学校を支える人々」を紹介していく。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>
<p>学校関係者による意見等</p>	<p>・「おうちDE道德」の取組を今後も継続して、改善に向けて取り組んでほしい。</p> <p>・学校は地域やボランティアとよい関係を築きあげていることが伝わった。</p>					
<p>人材育成 (不祥事根絶)</p>	<p>専門職としての自覚と責任をもち、校内外の研修会に意欲的に参加し、創意工夫ある教育活動を効果的・発展的に展開している。</p> <p>教育公務員としての使命を強く自覚し、職場から絶対に不祥事をださないという意識で働いている。</p>	<p>・職員の100%が「十分」「概ね十分」と回答。</p>	<p>A</p>	<p>・自分自身を振り返ることができる研修の実施と、会議内容の記録を積み上げていく。</p> <p>・ボトムアップ式の研修を多く取り入れるとともに、ロールプレイ研修など、自分に振り返って考えることができる研修を充実させる。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者による意見等</p>	<p>・職員が自覚と責任をもち、児童の教育や学校運営に携わっている。今後も継続を望む。</p>					

#### 4 次期の重点目標と改善のための方策

<p>①確かな学力を育てる。【主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の効果的な活用に向けて、事例を蓄積するとともに、職員研修を充実する。</li> <li>・指導と評価の一体化をすすめ、個に応じた指導を充実する。</li> <li>・新学習指導要領の学力観に即した授業研修を実施する。</li> <li>・少人数指導の充実に向け、学校スタッフを効果的に活用する(市サポート教員、特別支援教育支援員等各スタッフの適切な配置に努める)</li> </ul> <p>②基本的な人を尊重する態度を育成する。【明るく楽しい学校作り・児童の「学校が楽しい」を95%以上に！】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導、教育相談のバランスのとれた指導を推進する。(ケース会議の効率化と全職員での共有)</li> <li>・小さな思いやり行為、善行を賞賛していく。(あいさつの励行、帰りの会などでの振り返り時間の確保)</li> <li>・「おうちDE道德」の取組と道徳科の学習が相互に生きてくる校内体制・地域連携体制を構築する。(学習評価研修の充実・地域の方とともに作る道徳科授業の推進)</li> <li>・いじめを許さない毅然とした指導と被害児童を絶対を守る姿勢を示す。(いじめ・暴言・暴力行為の認知件数の更なる減少)</li> <li>・教育相談を充実させるとともに、問題行動に対して組織的対応がとれる校内体制を構築する。</li> </ul> <p>③インクルーシブ教育システム構築をめざし、児童一人一人の個性・特性を伸ばす教育を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援全体計画を見直し、機能的な校内体制を構築するとともに、効果的な運用に努める。(全職員の共通理解・共通行動・組織的対応)</li> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会の内容を充実させる。(個別指導計画の見直し)</li> <li>・学習遅滞(低学力者)に対する支援体制づくりを進める。(個別指導計画・個別の教育支援計画に基づいた全校体制での指導)</li> </ul>
---